

ビジネス・サファリにおける観察力養成 —「緋色の研究」から学ぶ¹⁾

大 林 守*

はじめに

本小論の目的は、ビジネス・サファリ用の観察力および仮説生成力を養成する補助的プログラムを紹介することにある²⁾。発見のためのビジネス・サファリを実践していく中で、参加学生の観察力および仮説生成力の養成が課題となった。参加学生のモチベーションを維持するためには、「やらされ」感を払拭する必要がある。そのためには、学生の自主性を最大限に生かすことが重要である。ところが、これまでも学校教育の中で、自然観察や体験学習（遠足、修学旅行、工場見学等）を経験してきたはずの学生達の中には、制約のない自学自習型のフィールド・アクティビティーであるビジネス・サファリに戸惑いをみせ、満足な成果が得られないケースが続出した³⁾。このため、観察力や仮説生成を促す補助プログラムを用意する必要性が生じた。

1. 「緋色の研究」から学ぶ観察力

ドイルのシャーロック・ホームズシリーズは、探偵小説の古典であり、現代においても様々な形で繰り返し映像化されているので学生達にとって遠い存在ではない。作品の著作権が切れているので、原著も翻訳も

インターネットで容易に入手可能である⁴⁾。ドイル(1887)によるシャーロック・ホームズ第1作の「緋色の研究」には、シャーロックが初対面のワトソン博士に対して、博士がアフガニスタン帰りであることを言い当てて驚かせる有名なエピソードがある。

初対面の場面、場所は病院の化学実験室、ワトソン博士の医師仲間がシャーロックに、「ワトソン博士だ」と紹介すると、ただちに「アフガニスタンに行ったことがありますね」と言い当てる。後に、シャーロックはこの時のことを文中で種明かししている。その内容を展開してみる。

観察1：英国紳士で医者らしい（病院の研究室で医師がドクター・博士として紹介）、軍人らしい（雰囲気からみて）→英国軍医という仮説

観察2：顔が黒いが手首は白い（肌の黒さは日焼け・ロンドンでは天気が悪いので日焼けする可能性は低い）→熱帯帰りだという仮説

観察3：やつれていて（顔をみて）負傷している（左腕に負傷）→苦難を経験という仮説

最終仮説生成：「英国軍医が熱帯で苦難を経験」という複合仮説として統合→アフガニスタン（当時の英国軍派遣先であるという既存知識）

* 専修大学商学部教授

コニコヴァ（2016）は、このエピソードを観察と仮説生成の好例として論考を加えている。それは、単に目に入るものを意識するという受動的な観察ではない。何をどのように見るかという、すなわち目の前の初対面の男は何者だということを知りたいという意志を持った積極的な観察である。そして、観察した情報に対して、的確な問いを投げかけ、自分の既存知識も動員し、問いによる情報を統合仮説としている。

小説では、後段でワトソン博士が窓の外に頑強な男性を見つける。彼の観察では、簡素な服装の人物で、不安そうに地番を見ながら通りの向かい側をゆっくりと歩き、大きな青い封筒を手にしており、どうやら手紙を配達しているようだというものである。シャーロックは一瞥して、その男性が海兵隊の軍曹上がりと指摘する。ホームズの観察と仮説は以下である。

観察1：彼の手の甲に大きな青い錨の刺青がみえる（海の香り）→海に関係という仮説

観察2：態度は軍人風（外見で判断）で、規定どおりの類髯（髭に関する海兵隊規定に合致）→海兵隊員という仮説

観察3：尊大で指揮命令を出してきた（雰囲気）、顔を見ると品のよい中年（退役・単なる兵卒ではなかった）→退役した軍曹という仮説（命令を出す軍人であるが、退役後に配達仕事をやっているから将校ではないし兵卒でもない）

最終仮説形成：海兵隊の軍曹上がりである。

ワトソン博士が観察を怠っているわけではない。彼は見えるものをほぼ正確に叙述していることに注意が必要である。しかし、同じものを見ているシャーロックは、対象人物を積極的に知ろうとして、注意深く、問いを発しながら観察し、あるいは情報を選択しながら観察している。シャーロックは、注意力を持っているのである。

観察を満足に行うには、注意力が必要である。しかし、注意力は稀少である。注意力の総量は限られているから、一方に注意を向けると他方への注意は落ちるというトレード・オフを持つ。したがって、コニコ

ヴァ（2016）がいう、注意的見落とし（アテンショナル・ブラインドネス）あるいは注意深い非注意（アタラシティブ・インアテンション）が起こるのである。このため、見ているはずなのに見ていないことが起こる。そして、こういった問題は、見るという行為に限定されず、五感すべてに共通する。

行動経済学者のカーネマン（2014）は、我々はシステム1とシステム2を持っていると論じている。システム1は、直感的・本能的であり、システム2は論理的である。システム1は、無意識的であり、訓練することが困難である。しかし、負荷が小さく、車のアイドリング状態と似ている。したがって、認知を進めるためにはシステム2の論理的な働きを必要とする。注意力を発揮するためには、システム1からシステム2への切り替えが必要となる。切り替えのためには、トリガーが必要である。何をどのように情報フィルターにかけるかが重要となる。

ただし注意力を発揮とするといっても、五感の情報を常にすべて意識していると、脳はパンクしてしまう。通常はシステム1のアイドリング状態が必要なのである。注意力の発揮のためには、あるきっかけですばやくシステム2を起動することができるように訓練することが重要である。さらには、システム1の領域にシステム2を浸透させることができれば素晴らしい。

観察力を高め、最終仮説を生成するには、選択力、客観性、包括性、積極的関与が重要となる。選択力は、流れ込む情報の中から、必要な情報を得るための的確な問いと選択を繰り返す力である。何気なく聞いている周囲の会話の中で自分の名前が出るとその会話に注意が集中することがあるだろう。これは自分のことを他人はどうみているか知りたいという目的のため、常に情報にフィルターがかかっていることで、自分の名前やそれに近いものが聞こえると自動的に注意が喚起されるわけである。つまり、目的意識を持ち、そのキーワード、匂い、風景、感触、味に反応するように心がけることが必要となる。気づくためには、何を知りたいかを事前に準備しておくことが重要なのである。

客観性は、選択力のワナから逃れるために必要である。選択力があるということは、ある事実に関りある

資源である注意力を配分することでもある。しばしば、ある目的意識を持つということは、見たいものや期待したのを見るために、事実を都合良く解釈して再構築してしまう思い込みのワナを持っている。そのワナから逃れるには、状況を解釈から分離して、見ているものと自分を分離させる必要がある。そのためには、事実のみに基づいた状況の再構築が有効であり、観察をストーリーとして展開すると良い。

包括性には、単一の感覚におけるものと、あらゆる感覚に関する2つのレベルがある。例えば、見るということに関しては、見えるものすべてだけではなく、その状況で見えないものにも着目するということである。つまり、不在は存在と同様な手がかりなのである。さらには、見るという感覚だけではなく、五感すべてを同時かつ連携させて動員することが包括性を保証することになる。

積極的参加がないところに、良い観察は生まれにくい。ビジネス・サファリというフィールド・アクティビティーに学生が積極的かつ主体的に参加しなければ、単純なリクリエーションとしての散歩となってしまう。積極的参加が、問題の発見、問題解決の可能性を生むのである。システム2が働き、システム1を導くようになることが重要である。

例えば、ある人物を観察するとしよう。まず、分類を行い、特徴を数えあげることにより、第一印象が形成される。この段階では、システム1でほぼ自動的になされる部分が多く、システム2はあまり関与しない。その人物をより深く知ろうとするならば、第一印象の修正が必要となるが、それが行われるのは特別な場合であり、積極的参加が存在する時のみである。例えば、その人物を採用するかどうかを決定する責任があるとすれば、第一印象の修正を行い、観察を深化させるのが自然である。そのためにはシステム2を意識的に起動する必要がある。以下では、学生達に、こうした観察力の発揮を促すプログラムを考える。

2. 観察力養成のための補助プログラム

以下では、8つのプログラムを紹介する。(1)は「緋色の研究」におけるシャーロックとワトソン博士

の観察力の違いを考え、正しい観察力を考える。(2)はビジネス・サファリに出かける前の事前学習用にビデオを利用したプログラムである。映像と通して見る観察力を主として鍛える。(3)はフィールド・アクティビティー（ビジネス・サファリあるいはフォト・サファリ）において、システム1に終始しがちな学生達にシステム2への気づきを促すためのチェックリストである⁵⁾。(4)は写真をベースにした分析用に開発された手法で、何が見え（See）、何が起きている（Happening）、自分たちにどのように関係し（Ourselves）、なぜそれが存在し（Why, Exist）、それに対して何ができるか（Do）を考えるものである⁶⁾。(5)は佐藤（2014）による新聞記事をベースに問いと仮説を生成させるべく開発されたプログラムであるが、資料から問いと仮説を生むという手法として捉えると、比較的簡便に利用でき、有用である。(6)は問題なり事象を再現することの重要性を考えた場合、ストーリーとして再現することが有効であり、わかりやすいフレームワーク（型）を利用することにより、ストーリーを作成することが可能となるプログラムである⁷⁾。(7)は資料から情報を抽出する手法として日本で開発されたものである。キーワードをきっかけとして、情報を整理する有効な手法である⁸⁾。(7)は実践派の都市学者として有名なジェイン・ジェイコブスにちなんだ都市探検プログラムである⁹⁾。都市のインフラストラクチャー、街並みそして建物に着目するプログラムであるが、商品・サービス・消費者行動に着目するようにすればビジネス・サファリのウォーキング・プログラムとして利用できる。

(1) シャーロック・ワトソン博士邂逅体験プログラム

1. 「緋色の研究」の読書を課題とする¹⁰⁾。時間の余裕のない場合は、必要箇所のみをコピーして配布する¹¹⁾。
2. 初対面におけるシャーロックによるワトソン博士の観察と観察からの仮説を区別して抜き書きしなさい。
3. 海兵隊あがりの軍曹のシーンにおけるシャーロックとワトソン博士のそれぞれの観察と観察からの仮説を抜き書きしなさい。
4. グループディスカッションでシャーロックとワトソン博士

の観察の違いがどこにあるのか議論する。

(2) ビデオを利用した観察力養成プログラム

学生が興味を持ちそうなビデオを用意し、15分程度の場面をみせる。質問事項を書いた紙を事前に配布し、メモを取るように指示する。ビデオは、ある特定の場所や環境において、主役、脇役、敵役が明確で、何らかの問題を解決しようとしているシーンを利用すると良い。

[A] これから15分のビデオを流します。メモを取りながら、注意深くビデオ鑑賞をしてください。終了後に、各自で以下の質問に答えてください。

ビデオによる観察力養成プログラム用質問票

1. 何が起きているのか
2. どのような場所、どのような環境か
3. 問題はどのように解決されるのか
4. 主人公はどのような人だと思ふか、なぜそう思ふのか
5. 脇役はどのような人だと思ふか、なぜそう思ふのか
6. 敵役はどのような人だと思ふか、なぜそう思ふのか
7. 匂いを感じるシーンはあるか
8. 味を感じるシーンはあるか
9. 触感や雰囲気を感じるシーンはあるか

[B] 記入が終了したら、グループディスカッションを行う。

1. グループでお互いの答えをチェックし、思いつかなかった点や異なる点を見つける。
2. グループでストーリーを再構築する。
3. 再度、同じビデオをみせるので、自分たちで作成したストーリーと比較してみる。

(3) 五感チェックリストプログラム

最も単純にシステム1から離脱するためにはチェックリストに頼る手がある。例えば、五感を動員して観察をする時には以下のチェックリストを用意できる。観察になれるまでは、このリストを使い、写真を撮ったり、メモを取ったりすることが重要となる。不在は存在よりも重要な情報となることから、最後の質問は不在を考えるものとなっている。

1. 見る

- (ア) 何が見えるのか
- (イ) 誰が見えるのか
- (ウ) 何がこの場所を特別なものになっているのか
- (エ) 何人見えるのか
- (オ) 何をしているのか
- (カ) この道、脇道、建物の良いところ・悪いところは何か
- (キ) 上記の質問で見えるのかを見ていないのかに変えて考えてみる

2. 聞く

- (ア) 何が聞こえるのか
- (イ) 静かか
- (ウ) うるさいか
- (エ) 自動車・電車は、通行人の音は聞こえるのか
- (オ) 上記の質問で聞こえるのかを聞こえていないのかに変えて考えてみる

3. 嗅ぐ

- (ア) 何の匂いがするのか
- (イ) 良い匂いか
- (ウ) くさい匂いか
- (エ) 嗅いだことのある匂いか
- (オ) 嗅いだことのない不思議な匂いか
- (カ) 上記の質問で匂いがするのかを匂いがしないのかに変えて考えてみる

4. 触る (コンタクト)

- (ア) 周囲は動き回りやすいか
- (イ) 視覚障害者は歩き回れるか
- (ウ) 車椅子の人は動き回れるか
- (エ) 安全な場所か
- (オ) 活気があるか
- (カ) 話しかけやすい人はいるか
- (キ) 上記の質問の状況が成立していないのはなぜか考えてみる

5. 味わう

- (ア) 何かおいしそうなものを売っているところはあるか
- (イ) 飲食店やコンビニは近いか
- (ウ) 気軽に入れる店はあるか
- (エ) 上記の質問の状況が成立していないのはなぜか考えてみる

図-1 SHOWED 法ワークシート

資料 写真	See 見えるもの	Happening 事象・事実	学籍番号		氏名	
			Our-lives 生活への関係	Why Exist 存在理由	Do 改善	
1						
2						
3						

<https://www.wpunj.edu/uppc/images/UPinPC+Photovoice+Facilitator+Toolkit+Final.pdf>
(2019年6月1日アクセス)

(4) SHOWED 法プログラム

このプログラムは、写真を分析するために開発されたもので、写真の中の情報を5つの視点から分析するものである。システム2を起動して写真から情報を抽出する手法であり、その5つの視点は以下となっている。図-1の SHOWED 法ワークシートを用意すると良い。

S : What do you see here? (S : 何が見えるのか)

H : What is really happening here? (H : 何が起きているのか)

O : How does this relate to our lives? (O : 我々にどう関係するのか)

WE : Why does this situation, concern, or strength exist?

(WE : なぜ、そういった状況は存在するのか)

D : What can we do about it? (D : 何をすることができるのか)

SHOWED 法ワークシートを書き入れた後、グループディスカッションで情報共有し、議論する写真を数点選択し、共同で行動案ないしは改善案を考える。

(5) 「問い」と「仮説」プログラム

新聞を利用して、興味のある記事をスクラップし、それから問い（なぜ？）を考え、そして仮説（なぜならば）を生成するプログラムである。本稿では新聞に拘らず、メモ、資料、写真などから問いと仮説を生成するプログラムとして解釈した。SHOWED 法より勘弁である。仮説に到達することが主目的であり、提案は努力課題である。

1. 対象となる資料・写真を選択、提示する。
2. 問いを考え、リストする。
3. 仮説を生成する。
4. もし、提案に結びつけることができれば記述する。

図-2 問い・仮説ワークシート

写真・資料	学籍番号		氏名	
	1	2	1	2
写真・資料	1	2	1	2
問い	1	2		
仮説				
提案				

佐藤大輔 (2014), 新聞を使った「問い」と「仮説」プログラム, 第8章, 「創造性」を育てる教育とマネジメント : 大学教育を革新するアカデミック・コーチングへ, 同文館出版より

5. グループで、自分のシートを発表し、情報共有を行う。ディスカッションを行い、異なる問い、仮説、提案を互いに出してみる。

(6) ストーリー・メイキング・プログラム

事象や問題を再現してみることは重要である。下記は、創造性プログラムで有名なシーリグが解説するストーリー・メイキング手法である。

1. 昔むかし…… (これまでの話)
2. 毎日…… (より詳しい話)
3. ある日…… (変化やイノベーションが起こったときの話)
4. そうしたら…… (結果の話1)
5. ああなって…… (結果の話2)
6. こうなって…… (結果の話3)
7. ついには…… (ヤマ場、クライマックス)
8. それ以来…… (締めくくり)

例えば、次のような寓話を作成することができる。

1. 昔むかし、犬恐怖症の人々がたくさんいる国がありました。
2. 毎日、犬に出会うのではないかと恐れるがあまり、引きこもりになっていました。
3. ある日、犬が猫に見える安価な眼鏡が発明されました。
4. そうしたら、犬恐怖症の国民は眼鏡を利用し、犬を見ないですむようになりました。
5. ああなって、犬が見えないので外出できるようになりました。
6. こうなって、いろいろな社会的な楽しみができるようになりました。
7. ついには、犬恐怖症の人は、普通の国民と生活ができるようになりました。
8. それ以来、全国民が幸せに暮らしました。

上記のようなおとぎ話ではなく、事実をベースにしたストーリーも可能である。4コマ漫画と同様に、起承転結でまとめることができる。

1. ある国の国民は、年1回の税金の計算で苦しんでいました。
2. 1年分のたくさんの領収書を費目別に整理・集計しないと、税控除がうけられずに高額な税金を納めることになってしまうからです。

3. ところがある日、ゲームマシンだと思っていたパソコン用の表計算ソフトが売り出され、毎日、領収書の情報を入力していけば、税金の計算が簡単にできるようになりました。
4. それ以来、適正な税金を納めることにより、生活の質が向上したのです。

次に議論する SCAT 法プログラムではストーリー・メイキングが重要な課題となるので、これらの手法が有効となる。

(7) SCAT 法プログラム (Steps for Coding and Theorization)

SCAT 法は収集した資料や写真を表形式にまとめる。ある資料に対して、第1段階として、4つのステップで分析を進める。

1. 写真や資料の中の着目すべき語句を考えて記入
2. それを言いかえるためのデータ外の語句を考えて記入
3. それを説明するための語句を考えて記入
4. そこから浮き上がるテーマ・構成概念を記入

第2段階として、テーマ・構成概念を利用してストーリー・メイキングを行う。

1. ストーリー・ラインを記入
2. 仮説生成を行い記入する

この手法は、比較的小さなデータの分析にも利用でき、初学者でも取り組みやすいものとされている。本稿ではスペースの関係で詳細な解説は SCAT のホームページに任せる。ホームページに掲載されている文献に SCAT 法の実例があり、それをビジネス・サファリ用アレンジして利用する。図-2は仮想例によるワークシートである。

(8) ジェイン・ジェイコブ・ウォーキング

実践的研究で活躍した都市学者のジェイン・ジェイコブにちなんだ都市観察プログラムを紹介する。都市学者であることから、インフラストラクチャー、街並み、構築物に着目するのが特徴であるが、ビジネス・サファリでは構築物を店舗、商品、サービスなどに置き換えて実行することができる。

図-3 SCAT 法ワークシート

資料・写真	着目すべき事実・語句	言いかえるためのデータ外の概念	学籍番号 氏名	
			説明するための語句	浮き上がるテーマ・構成概念
神保町・古書店街写真	道の両側に古書店、シアター、大規模新刊本書店、客層は男性で中年以上。	同業者、文化、顧客の高齢化	集積の利益、競争と集積	なぜ神保町に古書店の集積があるのか、きっかけ、発展、ビジネスモデル、継承
……	……	……	……	……
ストーリーテーマ：週末の神保町				
ストーリーライン： 地下鉄の神保町駅のA6出口は、ミニシアターの草分けである岩波ホールが接続しているが、寄り道をせず、そのまま地上へ出ると神保町の交差点である。靖国通り沿いに古書店が建ち並ぶ。古書店は、専門がある古書店、一般書の古書店、古美術の店もある。特価本が店先に並べられ、顧客が立ち止まって、渉猟している。顧客の年齢は高い。……。				
仮説： 顧客層の高齢化の影響で古書店街ビジネスモデルは生き残れるのか。シアターは新ビジネスの萌芽か？……。				
さらに追求すべき点・課題： ウィークデーあるいは別の時間帯。九段下、飯田橋、神楽坂、水道橋、お茶の水、神田との地域特性・機能の棲み分け				

出所：http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/index.html#09 (2019年6月1日アクセス) 本稿に沿うようにアレンジを行った。

- 都市のインフラストラクチャーに着目し、機能を考える。
例：マンホールの写真を撮り、それらの下に何があるのか、それはどういう機能を果たしているのか。
- 着目する地点を選択する。ランドマーク地点や特定の地点や道路などを選択し、写真を撮り、選択した理由を記録する。
- 着目地点の定点観察を、時間を変えて行う。時間を変えて観察、観測時刻、天候、土地利用、通行人 行動・活動観察地点のその時点の雰囲気（安全、うるさい、心地よい等）を記録する。
- 着目地点周辺の土地利用を観察し、記録する。
- 着目地点あるいは近隣にある興味深い建物を選択し、理由を記録する。昔と現在で利用法は変化しているか、改築や拡張は行われたかを記録する。
- 着目地点を中心とした数ブロック内の探査を行う。数本の脇道を含むブロック範囲を選択する。さらに、始点と終点を決定する。範囲内で始点から終点にいたる複数の経路を調べ、経路ごとに実際に歩き、どんな経験をしたかを記録する。複数の経路を比較した上で、空間としてのブロックの機能をまとめる。道や脇道で感じる良い点と悪い点は何か、建物で良い点と悪い点は、公園や空き地の良い点と悪い点はなにか、安全か、活気はあるかを観察する。
- 成果をまとめて発表する機会を積極的に作りだし、実際に発表する。
- 対象ブロックあるいはその街を改革するのは誰か、あるいはどこかを調査し、その責任者に対して改善案を提示するつもりで提案書を作成する。もちろん、機会を作って改善案を実際に提出することができれば、さらに良い。

まとめ

本小論では、観察力と仮説生成力の養成を主とした補助プログラムを紹介した。どれをどのように採用するかは、学生達の習熟度や対象となる地域、対象となる財・サービスなどにより使い分ける必要がある。学生達の自主性を損なわないように負荷をかけることは

常に困難であるが、ビジネス・サファリを成功させた学生達の満足度は非常に高いことから、ここで紹介した方法をうまくアレンジして、観察力を養成し、優れた仮説生成を促すことが「発見のためのビジネス・サファリ」には肝要である。

注

- 1) 本研究は2019年度専修大学商学研究所の共同研究助成を受けている。
- 2) 発見のためのビジネス・サファリは大林・神原 (2018) を、スマホを活用したビジネス・サファリは大林 (2019) 参照。
- 3) フィールド・ワークあるいはフィールド・リサーチという言葉ではなく、フィールド・アクティビティーとしたのは、ワークあるいはリサーチ以前の段階をターゲットとしているからである。
- 4) コンプリート・シャーロック・ホームズ (全訳) 緋色の研究 <https://221b.jp/1-stud.html> (2019年6月1日アクセス)
- 5) The Center for the Living City, Program, Observe! https://static1.squarespace.com/static/5060d23be4b06abda6efeeeb/t/5c50a1197924e815f972c493/1548787995457/Observe+India_Five+senses+guide.pdf (2019年6月1日アクセス)
- 6) SHOWED method. http://www.web-kids.org/uploads/1/3/5/3/1353427/showed_method.doc (2019年6月1日アクセス)
- 7) Your story is your destiny—Tell it well! <https://medium.co/m/@tseelig/your-story-is-your-destiny-tell-it-well-414bd5cd988c> (2019年6月1日アクセス)
- 8) SCAT 法は以下のホームページにくわしい。 <http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/#01> (2019年6月1日アクセス)
- 9) Urban Naturalist Guide, American Planning Association <http://static1.squarespace.com/static/54d3a1abe4b000d5abdf8641/54d8ea94e4b098941452c4ab/54d8ea47e4b098941452b57d/1364585196000/naturalistguide.pdf?format=original> (2019年6月1日アクセス)
- 10) インターネットでダウンロードするのが最も効率的である。探偵小説として楽しむことも重要であるが、観察と仮説生成に関して考えるプログラムである。この小説は2部仕立てで、現課題に関して重要なのは第1部であるが、作品を十分楽しむことも重要である。
- 11) 必要箇所の抜粋 <https://221b.jp/1-stud.html> (2019年6月1日アクセス)
(文中「僕」がシャーロックホームズ、したがって、「君」は

ワトソン博士である)

(中略) 君と初めて会った時、僕が君はアフガニスタンから戻ってきたと言ったら、君は驚いたようだった」

「きっとそう聞いていたんだろう」

「とんでもない。僕は自分で君がアフガニスタンから来たと分かった。長い間の習慣になっているから、僕の心に浮かぶ思考の連鎖は非常に素早い。僕は中間の段階を意識することなく結論を導き出している。しかし、それでも段階は踏んでいるのだ。推理の連鎖はこうだ。『医者っぽいタイプの紳士がいる。しかし軍人のような雰囲気がある。ということは、明らかに軍医だ。彼は熱帯から来たばかりだ。彼の顔は黒い。しかしそれは彼の肌の自然の色合いではない。手首は色白のためだ。彼は苦難と病気を体験している。彼のやつれた顔が明白に語っている。彼の左腕は傷ついている。彼はこわばった不自然な方法で固定している。熱帯のどの場所がある英国軍医に、こんな苦難と腕の傷を与えうるか。明らかにアフガニスタンだ』全体の思考の連鎖は一秒とかからなかった。その後、僕は君がアフガニスタンから来たと言った。そして君は驚いた」

(中略、以下、「私」はワトソン博士)

「あの男は何を捜しているんだろうな？」私は頑強な男を指差して尋ねた。その男は簡素な服装の人物で、不安そうに地番を見ながら通りの向かい側をゆっくりと歩いていた。男は大きな青い封筒を手にしており、どうやら手紙を配達しているようだった。

「あの海兵隊の軍曹上がりのことか？」シャーロックホームズは言った。

(中略)「シャーロックホームズさん宛てです」彼は部屋に入って来て、ホームズに手紙を渡しながら言った。

これは彼の鼻を折る、絶好の機会だった。彼はさっきのデタラメを言った時、こんな事になるとはまず思っていなかったはずだ。「ちょっと訊いていいかな」私は非常に穏やかな声で言った。「君の仕事は何かな？」

「便利屋です」彼はぶっきらぼうに言った。「制服は直しに出して、着いてませんが」

「元の職業は？」私は同居人にちょっと意地悪な視線を向けて尋ねた。

「軍曹です。英国海兵隊軽歩兵です。手紙の返事はありませんか？分かりました」

彼は踵をカチッと合わせ、手を挙げて敬礼し、出て行った。

(中略、以下はシャーロックの発言、「君」はワトソン博士) それでは、君は本当にあの男が海兵隊の元軍曹だという事が分からなかったんだな？」

「もちろんだ」

「推理そのものより、どうやって推理したかを説明する方がややこしいな。もし君が二足す二が四になることを証明してくれと言われたら、それが間違いのない事実だと分かっているけど、ちょっと困るだろう。通りの向こう側にいても、彼の手の甲に大きな青い錨の刺青が見えた。それは海の香りがする。しかし態度は軍人風で、規定どおりの頬髯だ。これで海兵隊員だと分かる。彼はちょっと尊大で、指揮命令を出してきた雰囲気ははっきり残っている。君も、あの男の胸を張った姿勢と杖を振る仕草を見たはずだ。顔を見れば落ち着いた品の良い中年の男であることも分かる、—— これら全てから僕は確信した。彼はかつて軍曹だった」

参考文献

大林守・神原理 (2018), 発見のためのビジネス・サファリ: ビジネス教育用アクティブ・ラーニング手法, 専修商学論集

(106), 41-62。

大林守 (2019), スマートフォンを活用したビジネス・サファリ: 都市型フィールドワーク入門のための一技法, 専修商学論集 (108), 85-92。

カーネマン, ダニエル (2014), ファスト&スロー (上) あなたの意思はどのように決まるか?, ハヤカワ・ノンフィクション文庫, 村井章子 (翻訳)。

コニコヴァ, マリア (2016), シャーロック・ホームズの思考術, ハヤカワ・ノンフィクション文庫, 日暮雅通 (翻訳)。

ドイル, コナン (1887), 緋色の研究, <https://221b.jp/1-stud.html> (2019年6月1日アクセス)

佐藤大輔 (2014), 新聞を使った「問い」と「仮説」プログラム, 第8章, 佐藤大輔編著, 「創造性」を育てる教育とマネジメント: 大学教育を革新するアカデミック・コーチングへ, 同文館出版, 173-200。